

NEWS & TOPICS

グループ各社の注目ニュースをお届けします

CLOSE UP 1

企業情報

セブン&アイHLDGS.
ネットスーパーの大型センターを
新横浜に開設
ラストワンマイル施策を推進

7月2日



セブン&アイHLDGS.は2023年春、イトーヨーカ堂が運営する「イトーヨーカドーネットスーパー」の新たな拠点として、「イトーヨーカドーネットスーパー新横浜センター(仮)」を神奈川県横浜市に開設します。同センターは、セブン&アイグループの「中期経営計画2021-2025」に基づき、ラストワンマイル施策の一環として整備するもので、近隣のイトーヨーカドー約30店舗の配送エリアと、同センターから約30km圏内の配送エリアをカバーする、約1万1028坪の大型拠点です。

2001年からサービスを開始した「イトーヨーカドーネットスーパー」は、社会環境の変化に合わせて年々ニーズが高まり、今後もニューノーマルにおいてニーズが拡大していくものと考えています。大型センター化により、ますます拡大するお客様ニーズに対応するとともに、グループの拠点としてセブン・イレブンでの留め置きや、受取りロッカーの設置拡大による受取拠点の多様化などのテストを行い、さらなる利便性向上も図ります。今後、お客様様の立場に立ち、新たな体験価値を提供し続けていきます。



「イトーヨーカドーネットスーパー新横浜センター(仮)」イメージ

CLOSE UP 2

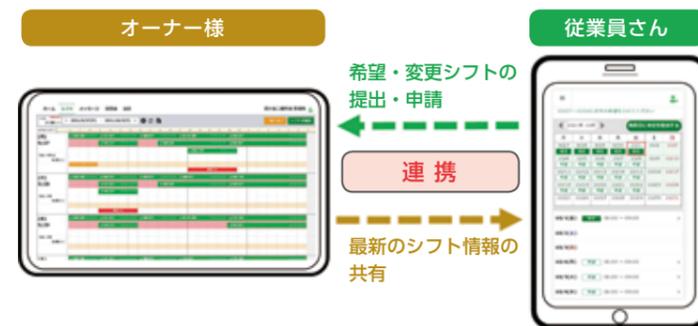
企業情報

セブン・イレブン・ジャパン
効率的な店舗運営をサポート
『シフト作成支援システム』を
全国の店舗へ拡大

10月1日

セブン・イレブン・ジャパンは、店舗運営の効率化をサポートするための「シフト作成支援システム」を、全国のセブン・イレブン2万1210店舗(2021年9月末時点)に拡大しました。同システムは、従業員名や勤務時間などの必要項目を入力することで簡単にシフト表が作成可能で、オーナー様と従業員さんがWEB上で、いつでもシフト表を確認することができる仕組みです。同システムを導入することで、シフト作成に関わる作業量が約4割減り、オーナー様の業務の削減や心理的な負担軽減につながります。

2019年12月より、一部地域でテスト導入を開始。店舗でのシフト作成業務の大幅な効率化を実現できたことから、加盟店のオーナー様が安心して経営に専念できる仕組みの一つとして、全国に拡大しました。今後もフランチャイズ本部として、オーナー様や従業員さんの負担を減らす仕組みの導入を進めていきます。



オーナー様と従業員さんは、自身のモバイル端末の活用でこれまで以上に綿密なやり取りが可能に。

受賞

セブン・カードサービス
nanacoサイトが
HDI「Webサポート」
格付けで最高評価を獲得

7月1日

セブン・カードサービスが運営するnanacoサイトは、サポートサービス業界のメンバーシップ団体であるHDI・Japanが実施している2021年格付けベンチマーク「Webサポート」格付けの部門において、最高評価の「三つ星」を獲得しました。同サイトは、24時間いつでもお客様の困りごとを解消することを目的として、AI(人工知能)を活用したチャットボットによるお問い合わせ窓口を2020年に開設。チャットサポートの応答が早いことや、フリーワードの検索機能が充実していることなどが評価されました。

社会・環境活動

セブン・イレブン・ジャパン
店内販促物を環境配慮素材に
切り替え、環境負荷低減

7月5日



セブン・イレブン・ジャパンは、セブン・イレブン店舗内に設置する販促物を、石油由来プラスチック製から新素材「ユポグリーン」に切り替えました。新たに使用する「ユポグリーン」は、独自製法により植物由来のバイオマス樹脂を配合することで、石油由来プラスチック量を従来比約12%削減することができる素材です。

企業情報

セブン・イレブン・ジャパン
外国人材のサポートを行う
「セブングローバルセンター」
を設立

7月5日



セブン・イレブン・ジャパンは、国をまたいだ人材の育成・就業促進の支援・管理を通じて、多文化共生社会を実現することを目的に、協力企業・組織と連携する枠組みとして一般社団法人セブングローバルセンターを設立しました。留学生を中心とした多くの外国人材がセブン・イレブンの加盟店で活躍する中、今後も安心・安定して働けるよう、在留支援管理を推進するためのプラットフォームとして、外国人材の開発、研修、加盟店へのマッチング、在留手続きや生活の支援を行い、外国人材の地域社会への定着を支援します。

セブングローバルセンターは、オンラインサービスによる在留手続きサービスを提供する株式会社Ones, 外国人向け家賃保証・生活支援を提供する株式会社グローバルラストネットワークス、外国人向け金融サービスを提供するセブン銀行のほか、人材開発・研修などを担う企業と連携し、セブン・イレブン加盟店における人材育成のサポートを行っています。また、持株会社であるセブン&アイHLDGS.とも連携し、グループ会社への外国人材受け入れのベースを広げ、日本社会が直面する人口減少という問題に対処していきます。

新サービス

そごう・西武
ファンコミュニティサイト
「マニア区」開始

7月16日

そごう・西武は、個人の趣味嗜好が多様化する中、興味や関心ごとを切り口とした顧客との関係構築を目的に、顧客参加型のファンコミュニティサイト「マニア区」を開設。顧客のリアルな投稿や声をデータ化・蓄積し、顧客ニーズに対応した商品やサービスの開発、売場づくりを進め、お客様の「使い方」に即した売り方や店頭での活性化につなげます。



社会・環境活動

セブン・イレブン・ジャパン
「サンドイッチ」の包材を刷新
プラスチック使用量約40%減

7月21日



セブン・イレブン・ジャパンは、オリジナルフレッシュフードの主力商品であるサンドイッチのパッケージの一部を、独自技術により紙素材と組み合わせた新素材に変更。石油由来のプラスチック使用量を約40%削減します。東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県より順次、切り替えを実施しています。今後も品質へのこだわりや安全・安心とともに、さらなる環境に配慮した商品開発に取り組んでいきます。

社会・環境活動

セブン&アイHLDDGS.

7月21日



『セブンプレミアムフレッシュ』で初めて『MEL認証』を取得
セブン&アイHLDDGSは、プライベートブランドである『セブンプレミアムフレッシュ』で、日本発の国際規格に準拠した水産物の認証制度である『MEL認証』を初めて取得。『MELマーク』が付与された『セブンプレミアムフレッシュ活夏ぶり』をグループのスーパー456店舗で発売しました。

『MEL認証』とは、マリン・エコラベル・ジャパン協議会が運営している、水産資源や生態系などの環境にやさしい方法で行われている漁業や養殖業を認証する仕組みです。「漁業認証」、「養殖認証」、「流通加工段階認証」の3種類がある中、今回は「持続可能な調達」の一環として、流通段階における

『MEL流通加工段階認証 ver2.0』を取得。これにより、商品の生産者・加工業者と連携し、生産現場から食卓までのトレーサビリティを確保するとともに、消費者の皆様が責任ある養殖業で生産された、安全・安心な商品を選択できるようにになりました。



紹介動画はこちら

社外評価

セブン&アイHLDDGS.

8月6日

世界的なESG指数の構成銘柄に選定
セブン&アイHLDDGSは、世界的なESG（環境、社会、ガバナンス）指数である『FTSE 4Good Index Series』*1に7年連続で、『FTSE Blossom Japan Index』*2に5年連続で構成銘柄に選定されました。今後ますますのステークホルダーに「信頼される、誠実な企業」を目指し、ステークホルダーの皆様とともに、グローバルな社会課題にも積極的に取り組んでいきます。

*1 ロンドン証券取引所が出資するFTSE Russell社が作成した指数で、ESGに優れた対応を行っている企業が選定されています。サステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されています。
*2 ESGへの対応が優れた日本企業のパフォーマンスを測定するように設計されています。年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が指数として採用しています。

社会・環境活動

セブン・イレブン・ジャパン CO₂排出量削減を目指し、新型『FC小型トラック』の新たな実証実験を開始

8月10日



セブン・イレブン・ジャパンは、店舗に商品を運ぶトラックの一部に環境配慮型の車両を導入するとともに、水素の利用も促進していきます。今回、水素を燃料とした配送車『FC小型トラック』の新型車両による実証実験を、栃木県の水素ステーション併設型配送センターで開始。配送にともなうCO₂排出量の削減を目指します。



FC 小型トラック

受賞

赤ちゃん本舗

8月26日

「第15回キッズデザイン賞」を2商品で受賞
赤ちゃん本舗の「フチまる傘」「ひらけ！ファッPlus」が、特定非営利活動法人キッズデザイン協議会が主催する「第15回キッズデザイン賞」を受賞しました。11年連続、通算29件の受賞となります。これからもお客様の気持ちに寄り添った商品・サービス・情報の提供を目指していきます。



つゆ先をなくすことで、お子様が安心して使える「フチまる傘」

社会・環境活動

セブン&アイHLDDGS. 再生PET樹脂100%使用「セブンプレミアム」お茶飲料リニューアル

8月30日



セブン&アイHLDDGSは、「セブンプレミアム」のお茶飲料4アイテムを、再生PET樹脂を100%使用した環境にやさしいペットボトルにリニューアルし、全国のイトーヨーカドー、ヨークマート、ヨークフーズ、ヨークベニマルなど、グループの約470店舗で発売しました。今回の商品を含め、セブンプレミアムのペットボトル全体使用量のうち、約20%が再生PETになりました。



社会・環境活動

セブン&アイ・フードシステムズ ファミリーレストラン初 新たな食品リサイクルループを構築

9月2日



デニースは、店舗から排出されるコーヒー豆かすを飼料化して牛に給餌する、新たな食品リサイクルループを構築しました。さらに、このループの中で生産された生乳をホワイトソースとして加工したドリアを、新メニューとして開発しました。



「かぼちゃとさつまいものドリア」

新サービス

セブン・イレブン・ジャパン 新機能を搭載し「マルチコピー機」を刷新

9月14日

セブン・イレブン・ジャパンは、全国2万1215店舗（2021年8月末時点）に設置している「マルチコピー機」を刷新。2022年9月末までに、新機種を導入を完了する予定です。「QRコードリーダー」や「シャッフルプリント」などの新機能を搭載し、コロナ禍で変化するライフスタイルやワークスタイルに対応した新たな活用を提案します。



社会・環境活動

イトーヨーカ堂 「3R推進月間」で衣料品の回収キャンペーンを初めて実施

9月28日



イトーヨーカ堂は、環境省が定める3R（廃棄物などの発生抑制・リデュース、再利用・リユース、再生利用・リサイクル）推進月間に、イトーヨーカ堂で初の取り組みとなる衣料品の回収キャンペーンを10月1日より実施し、期間中、約19万枚を回収しました。再生ポリエステル素材「RENU」を使った、人にも地球にもやさしい秋冬ライフスタイル商品を販売しています。

社会・環境活動

イトーヨーカ堂 セブン・イレブン・ジャパン 静岡市と「地方創生の推進に向けた連携に関する協定」を締結

10月1日



セブン・イレブン・ジャパンとイトーヨーカ堂は、静岡市と地元産品の流通・販売支援や市政情報発信などの5分野で相互の連携を強化し、静岡市のよりいっそうの活性化に資するため、「地方創生の推進に向けた連携に関する協定」を締結しました。本協定は、静岡市の人口減少を克服し、地方創生の推進を図ることを目的としています。また、東海エリアで初となるペットボトル回収機を設置しました。



OPEN情報		
■ 8月27日(金)	パーニース ニューヨーク 西武渋谷店	東京都渋谷区宇田川町21-1 西武渋谷店B館1階
■ 9月3日(金)	伊勢崎ロフト	群馬県伊勢崎市西小保方町368 スマーク伊勢崎1階
■ 9月24日(金)	上海万象城ロフト	中国上海市閔行区吳中路1599号 上海万象城SC2階
■ 9月30日(木)	アカチャンホンポ ニトリモール宮崎店	宮崎県宮崎市源藤町東田454番地 ニトリモール宮崎内1階
■ 10月8日(金)	金沢ロフト	石川県金沢市堀川新町3-1 金沢フォーラス5階

カンボジア・プノンペンにセブン・イレブンが初出店
8月30日

プレク・プノフ地区に開店した店舗では、「セブンセレクト」のお菓子ははじめ、地元フレッシュ・フード商品など2,000アイテム以上を取り扱います。

インド・ムンバイにセブン・イレブンが初出店
10月9日

金融・商業・映画産業の中心地であるムンバイに1号店を開店しました。インドは、セブン・イレブンが進出する18番目の国・地域です。